

校内環境や教室環境の工夫

幼稚園

研修シートを活用し、全教職員で
支援内容を共有する取組

活用した資料

校内研修プログラム P10

- 学級づくり -

○ 実践の概要

1 指導や支援の検討 【4歳児年中組 K児への支援を含めたクラスの取組】

目指す取組	事 例	学級づくりに関する実践交流
・1日の生活に見通しをもち、今日の活動に期待をもたせる取組	・「今日の予定は・・・」等、ホワイトボードに1日の予定(流れ)を文字やイラストを使いながら、説明する。 ・「楽しい事がいっぱいある」と思えるような伝え方や見通しがもてるよう「〇時になったら○○ができる」等、時計に印を付け、遊びへの期待がもてるよう説明する。 ・毎日の生活の中で、遊びに必要な道具が分かりやすいよう、写真や絵カードで表示する。	・1日の流れに、K児の好きな活動や遊びの場(体育館)があることを、視覚的な手掛かりを用いて説明し、期待感をもたせる。 ・K児以外の子どもたちも、1日の流れを知ることで主体的に活動する姿が多く見られる。 ・どこに何があるかが分かり、やりたい遊びがすぐ実現できている。自分で出したり、自分で片付けたりすることに戸惑いなく、取り組んでいる。
・上手にできたことを認めて、自信や意欲につなげる取組	・全員の準備ができるまで、静かに座って待っているなど、約束が守れたときには、一人一人を認めたり、褒めたりする。 ・「〇」という記号やカードで行動を評価するとともに、頭をなでるなどして、褒める。	・K児を褒めるときは、ぎゅっと抱っこしたり、頭をなでたりすることが、「ごほうび」となっている。 ・褒めてもらうことが、喜びにつながっており、約束も少しずつ守れるようになってきている。 ・クラス全体の子どもたちを褒めることは、どの子どもたちにとっても自信と喜びにつながっている。

校内研修プログラム - 1 学級づくり

本園では、全職員で支援内容の共通理解を図り、より効果的な支援を行うため、研修シート - 1を活用し、子どもの実態に応じた指導や支援の充実を図っています。

研修シートには、基本的な生活習慣の定着に向けた支援や、集団による活動への参加を促す際の支援についてまとめています。まとめた内容は、A町幼小連携連絡会において活用し、関係する小学校との引継ぎにも活用しています。

○ 実践の成果

本取組では、全職員で支援内容の共通理解を図り、子どもの実態に応じた指導や支援の充実を図ることで、子どもたちにとって活動しやすい環境整備を進めることができました。

また、職員同士の支援内容や方法についての交流が充実したことにより、効果的な取組を共有することができました。

その結果、特別支援教育にかかわる教職員の資質向上を図ることにつながりました。

校内環境や教室環境の工夫

幼稚園

全学級で統一した環境づくりの取組

活用した資料

実践事例集 P 3、6

- 保育の展開 -
- 好ましくない言葉がけを好意に満ちた言葉がけに変える例 -

○ 実践の概要

本園では、特別な教育的支援を必要とする幼児への指導や支援の充実を図るため、視覚的な手掛かりによる支援や温かな言葉掛けによるかわりに取り組んでいます。

○ 視覚的な支援

- ・ 教室内の興味があるものに注意が逸れ、集中して話を聞くことが難しい幼児が在園していることから、掲示の仕方や物の配置を検討し、全学級で統一しています。
- ・ 見通しをもてないことで不安になる幼児が在園していることから、一日の保育の流れを見通せるよう、全学級で同じ絵柄のスケジュールカードを用いて日課を掲示しています。
- ・ 物置の入口等に掲示している入室禁止の表示について、幼児が言葉の意味を考えて行動できるよう工夫しています。



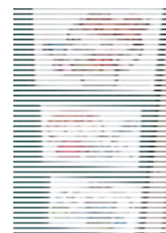
整理前



整理後



入室禁止の掲示



スケジュールカード

○ 温かな言葉掛け

- ・ 端的な言葉がけで指示するようにしています。
- ・ 教職員の日常の言葉掛けについて振り返り、幼児にとって肯定的な温かな言葉掛けとなるよう共通理解を図っています。

○ 実践の成果

本取組では、全学級で「視覚的な手掛かりを用いた支援」に取り組んだことにより、年齢の異なる子どもを指導する縦割り保育でも、幼児が安心して取り組むことができるようになりました。

特に、日課等の掲示位置を統一したことにより、全ての幼児が、どの教室でも落ち着いて活動に取り組むことができるようになりました。

また、端的な指示や、掲示を含めた教室環境について交流したことは、互いの実践を高めることにつながりました。

校内環境や教室環境の工夫

幼稚園

視覚的な手掛かりを用いた 環境づくりの取組

活用した資料

実践事例集 P 3

- 保育の展開 -

○ 実践の概要



視覚的な手掛かりを用いたホール入口の掲示

本園では、廊下を走りながら遊戯室へ向かう園児が多く、出入口の付近で園児同士が衝突することがありました。

そのため、実践事例集の「保育の展開」を参考に園内の環境を整えています。

具体的には、教師がその都度、言葉掛けを行わなくても、園児が自分で安全を確認し、自ら危険を回避できるよう、身近な道路標識や、左右を確認するためのマークを貼るなど、掲示物を工夫するとともに、各学級で標識の意味について指導を行いました。

○ 実践の成果

本取組では、視覚的な手掛かりを用いて園内の環境を整えたことにより、教職員が言葉がけを行わなくても、自ら「一時停止」をした後、左右を確認してから遊戯室へ行く園児が増えました。

また、園児同士で、一旦止まって安全確認をしたり、声を掛け合ったりする姿も見られるようになりました。

掲示や板書等への配慮

小学校

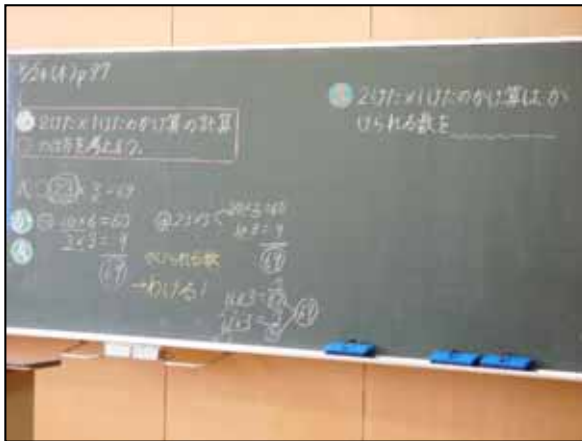
全校で統一した 分かりやすい板書の取組

活用した資料

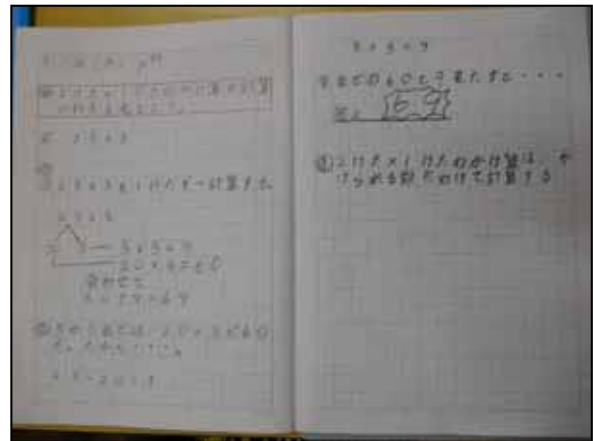
実践事例集 P16

- 授業づくり -

○ 実践の概要



板書の例



児童が書いたノート

本校では、児童一人一人が板書を正しくノートに写し、復習の際にノートを活用しやすくするため、板書の表記を統一することに取り組んでいます。

具体的には、ノートに書き写す際、行の終わりや始まりの文字で児童が脱字の有無を確認することができるよう、板書を行う際には、児童用ノートのマス目と同じ文字数で板書をしています。

また、板書では、その授業における「問題」「めあて」「考え」「友達の考え」「まとめ」「ふりかえり」が分かりやすいようカードを用いて表記しています。表記方法は、「も」=問題、「め」=めあて(学習課題)、「か」=考え、「と」=友達の考え、「ま」=まとめ、「ふ」=ふりかえりなどと全校で統一して取り組んでいます。

○ 実践の成果

本取組では、児童用ノートのマス目と同じ文字数で板書を行ったことは、板書内容の精選にもつながりました。

その結果、児童が、1行ずつ自分で確認をしながら、正しくノートに写すことができるようになりました。

また、黒板に学習課題を提示することを全校で統一したことにより、教科や学年が変わっても、学習に見通しをもって参加することができるようになり、児童が意欲的に学習活動に取り組む場面が多く見られるようになりました。

掲示や板書等への配慮

小学校

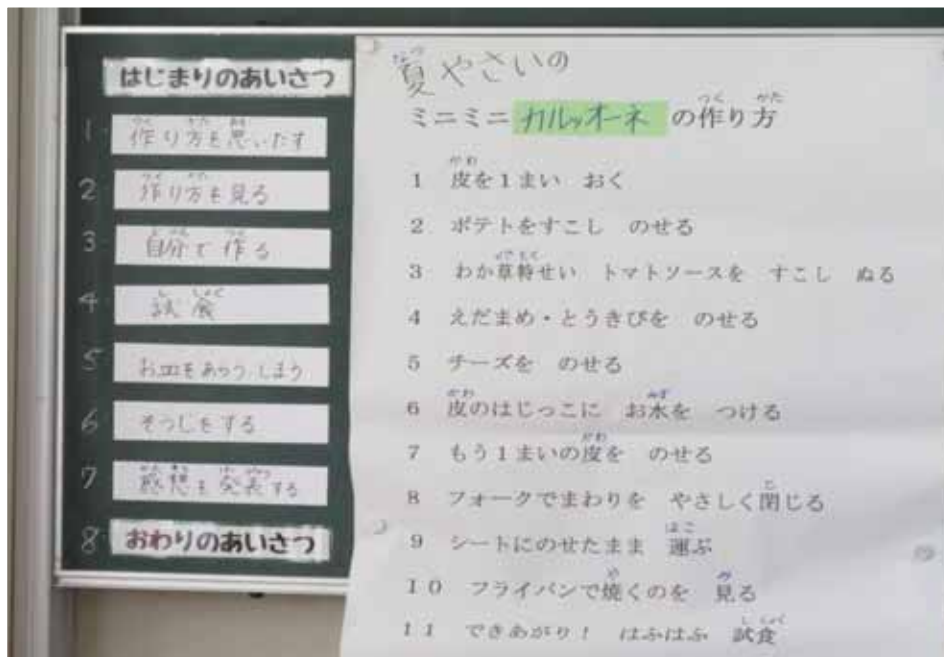
掲示や板書の工夫により 指示を明確化する取組

活用した資料

実践事例集 P14

- 授業づくり -

○ 実践の概要



スケジュールの掲示

本校では、特別な教育的支援を必要とする児童への指導や支援の充実を図るため、実践事例集の「授業づくり」を参考に、視覚的な手掛かりを用いた明確な指示や分かりやすい説明に取り組んでいます。

授業の冒頭には、板書や掲示物、映像を使って本時の学習活動を説明し、見通しをもてるようにしています。

また、児童によっては、活動中に授業の流れを確認する必要があることから、授業中も児童の見やすい場所に授業の流れを掲示しています。

○ 実践の成果

本取組では、掲示や板書など、学習活動を説明する際の工夫を行ったことにより、児童が活動の見通しがもてるようになりました。

また、授業中、児童が自ら活動の手順を確認することができるようにしたことにより、児童の集中力が高まり、学習活動に主体的に取り組めるようになりました。

掲示や板書等への配慮

小学校

全校で統一した板書の工夫による 授業改善の取組

活用した資料

実践事例集 P16

- 授業づくり -

○ 実践の概要

本校では、全ての児童にとって、分かりやすい授業づくりを目指しています。

具体的には、児童に課題や授業の流れを分かりやすく示したり、板書とノート of 文字数を一致させたりするなどの工夫に全教職員で取り組んでいます。

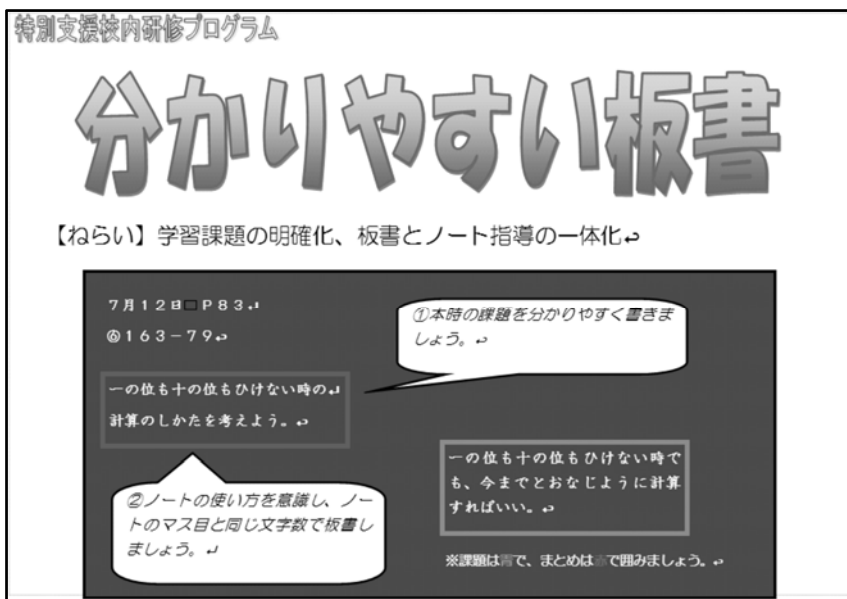
板書の工夫（例）

課題は青で囲み、まとめは赤で囲む。

授業の流れや活動内容を板書して示す。

板書の文字数をノートのマス目の数と一致させる。

また、全教職員が分かりやすい板書を常に意識できるよう、板書の例を資料としてラミネート加工し、配付しています。



板書の例

○ 実践の成果

本取組では、全校で統一した取組を行ったことにより、どの学級でも児童が見通しをもち、安心して学習活動に取り組むことができるようになりました。

また、ノートのマス目と板書の文字数を一致させたことで、児童が、スムーズにノートをとることができるようになり、学習内容の定着につながりました。

掲示や板書等への配慮

中学校

校内研修プログラムを活用した授業改善の取組

活用した資料

校内研修プログラム P 40

- 授業づくり -

実践事例集 P 24

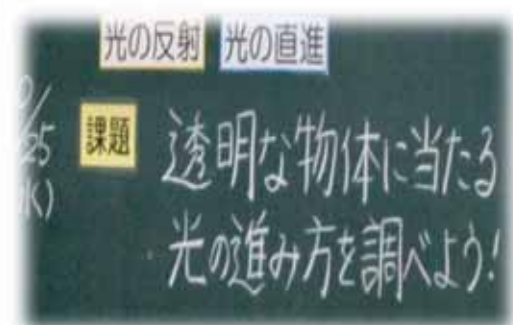
- 授業づくり -

○ 実践の概要

本校では、言葉による説明だけでは十分理解することが難しい生徒が在籍していることから、校内研修プログラムを活用し、授業づくりにおける課題提示やまとめの板書の仕方について、全ての教科で統一して取り組んでいます。

生徒が何を、どのように学ぶのかを見通すことができるよう、導入場面では、生徒にとって分かりやすい課題提示を行うことについて共通理解を図りました。

課題を提示する際には、共通のカードを活用し、全ての教科で同じような課題提示となるよう工夫しています。



生徒が何を学んだのかを実感できるよう、終末場面では、課題と正対したまとめとなるよう留意するとともに、生徒が分かったこと、できたことを振り返る場面を設けることについて共通理解を図りました。

校内研修プログラム「-2 授業づくり」

1 授業中の配慮

- ※ 配慮の例で、学校として1つ～2つを重点として定め、全校で取り組むことが考えられます。
- ※ 配慮の例で、個人として既に取り組んでいるものは口を借りつつなど、自己研修に使うこともできます。
- ※ 授業の展開は、その時間の目標や位置付けに応じて定めてください。

時	子どもの主な学習活動	発達障がいのある子どもに対する教師の配慮の例
導入	■子どもが何を、どのように学ぶかを見通すことができる。	◎ 興味・関心を高めるよう工夫する。 □ 課題を視覚的に理解できるようにする。 □ 話す内容を精選し、簡潔な発問、指示をする。 □ 考え方や解き方を説明する（ICT機器等の活用など）。 □ 教師が説明した内容を理解したかどうかを確認する。 □ 本時の学習のねらいを示す。 - など
展開	■子どもが目標の実現に向けて、主体的に学習することができる。	◎ 集中して取り組めるよう工夫する。 □ 考え方や解き方の説明をもとに、取り組むよう促す。 □ しやべらないで、集中して学習するよう促す。 □ 一人で解決することがむずかしい子には、教師が付いて、その子の状況に応じた方法（視覚的支援、操作活動の支援、スモールステップの取組の支援、演示や助言、問答など）で教える。 □ 取組の途中で、その子なりのがんばりをほめる。 - など
終末	■子どもが学習を振り返り、何を学んだのかを自覚することができる。	◎ 学んだことを理解できるよう工夫する。 □ 考え方や解き方をまとめる（ICT機器等の活用など）。 □ 本時の学習で分かったことを確認する。 □ 練習問題への取組を促し、一人一人の状況を確認する。 □ 不十分な場合は、その子の状況に応じた方法で教える。 ※ 必要に応じて、難易度の違う練習問題を用意しておく。 - など

○ 実践の成果

本取組では、校内研修プログラムを活用した授業改善を推進したことにより、導入場面における課題提示や、終末におけるまとめ、振り返りについて、教職員の共通理解を図ることができました。

また、課題提示やまとめを行う際に全ての教科で共通のカードを活用したことは、生徒が学習に見通しをもったり、学んだことを振り返ったりすることにつながりました。

掲示や板書等への配慮

中学校

全ての生徒にとって分かりやすい授業を目指した授業改善の取組

活用した資料

実践事例集 P 26

- 授業づくり -

○ 実践の概要

本校では、学力向上を目指した校内研究として、特別な教育的支援を必要とする生徒への指導や支援も含めた各教科における「授業改善」に重点を置いた取組を推進しています。

取組に当たっては、実践事例集を参考に、全ての生徒が「分かる授業」を目指し、学校全体で以下のように取組を進めています。

【指導や支援の工夫】

全ての生徒にとって分かりやすい授業を目指した授業改善の取組

- (1) 授業の流れを視覚的に示すなど授業の見通しがもてる板書の工夫
- (2) 端的で分かりやすい発問の工夫
- (3) 実物投影機など視覚教材の積極的な活用
- (4) 板書をとることが苦手な生徒への個別指導などノート指導の充実

パートナー・ティーチャー派遣事業の活用

- (1) 発達障がい等の理解と支援についての講話
- (2) 具体例に基づく研究協議
- (3) 特別な教育的支援を必要とする生徒への指導や支援についての助言



授業の様子

○ 実践の成果

本取組では、教師が黒板に「目標」や「まとめ」を表示したり、説明や発問の際に、「簡潔に」「話す速度」「視覚支援」等に留意しながら、授業を展開したことにより、生徒は、見通しをもって落ち着いて授業に参加したり、授業内容を理解したりすることができるようになりました。

また、パートナー・ティーチャー派遣事業で来校した特別支援学校の教員から、特別な教育的支援を必要とする全ての生徒にとって分かりやすい授業を行う必要性についてアドバイスを受け、実物投影機の積極的な活用や、生徒一人一人の学習状況を机間指導で把握することなどを、全教職員で共通理解を図ることができました。

今後は、それぞれの教師が工夫している効果的な具体例について、校内で共通理解を図る取組を実践したいと考えています。

個に応じた支援の工夫

小学校

視覚的に分かりやすい教材を活用した
授業改善の取組

活用した資料

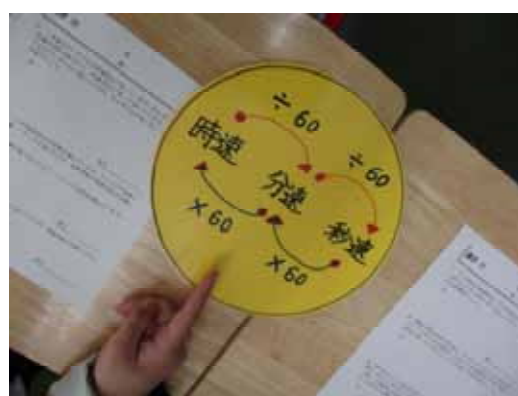
実践事例集 P 11 - 19

- 授業づくり -

○ 実践の概要



速さまるわかり表



速さ換算表

本校では、第6学年算数の「速さ」の単元において、公式や単位が分かりやすくなるよう、「速さまるわかり表」「速さ換算表」の教材を作成し、活用しています。

個別の指導計画の目標である「目と手を活用しながら理解を深める」の達成に向け、単に、公式を言葉で覚えるのではなく、「速さまるわかり表」を操作し、言葉で表現することに取り組んでいます。

速さや時間、距離を求める際の公式が分かる「速さまるわかり表」を使った学習は、手元の操作が伴うことから、ノートやワークシートと見比べながら学習することができるようになってきています。

また、単位の変換については、「1時間は何分か」、「1分は何秒か」を普段の生活の中で理解できている児童も、「速さ」の学習においては戸惑うことも多く、速さ換算表を見ながら、学習に取り組みました。

初めのうちは、児童から「速さ換算表を見せてください」という声が出されていましたが、換算に慣れるにつれ、「表なしでやってみます」という声が出されるなど、学習に習熟した様子が見られました。

○ 実践の成果

本取組では、「黒板を見てからノートを見る」よりも、手元で操作しながら活動する方が、スムーズに取り組むことができるようになりました。

また、チーム・ティーチングによる指導場面において、これらの教材を活用したことにより、個に応じた支援の重要性について、他の教職員と共有することができました。

個に応じた支援の工夫

小学校

定規による作図の指導を工夫した取組

活用した資料

取組事例集 P 51 - 53
- 個に応じた支援の工夫 -

○ 実践の概要

本校では、取組事例集の「個に応じた支援の工夫」を参考に、特別な教育的支援を必要とする児童への支援の充実を図っています。

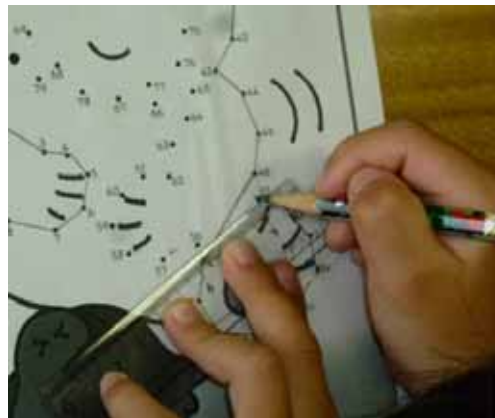
本事例では、定規を使って直線を引くことが苦手な児童が、定規を動かないように押さえながら、直線を引けるよう指導を進めました。

当該児童は、指先を使う細かい作業が苦手としているため、個別の指導計画に「手指の巧緻性を高める」ことを目標に位置付けています。活動の様子を見ていると、定規を押さえる指先に力が入らず、直線を引いている間に定規がずれてしまうことが多いことが分かりました。

そこで、数字の順に点をつないでいく活動に定期的に取り組みました。

定規は、操作しやすいよう 10 cm のコンパクトなものを使用し、4 本の指を定規の中心から広げ、バランスよく押さえることや、定規の向きによっては親指と人差し指を広げ、押さえることなど、具体的に指導しながら練習を重ねました。

また、当該児童が定規の使い方に自信をもちはじめた頃、プリントを上下左右に動かしたり、回転させたりすることで、より簡単に丁寧な直線が引けることを自ら気が付くことができました。その気付きを教師が賞賛することで、定規の使い方が安定し、ノート指導の場面等でも、自ら定規を活用しようとする様子が見られるようになりました。



実際にプリントで作業している様子

○ 実践の成果

当該児童は、本実践に加え、様々な場面で直線を引く課題に継続的に取り組んだことにより、定規をしっかりと押さえながら、上手に直線を引くことができるようになりました。

また、算数科の授業では、定規を使って正確に図形を描くことができるようになったことが自信につながり、授業への集中が高まり、学習意欲の向上が見られました。

個に応じた支援の工夫

小学校

友達同士のトラブルの原因を 視覚的に示した事後指導の取組

活用した資料

実践事例集 P 7 - 9

- 学級づくり -

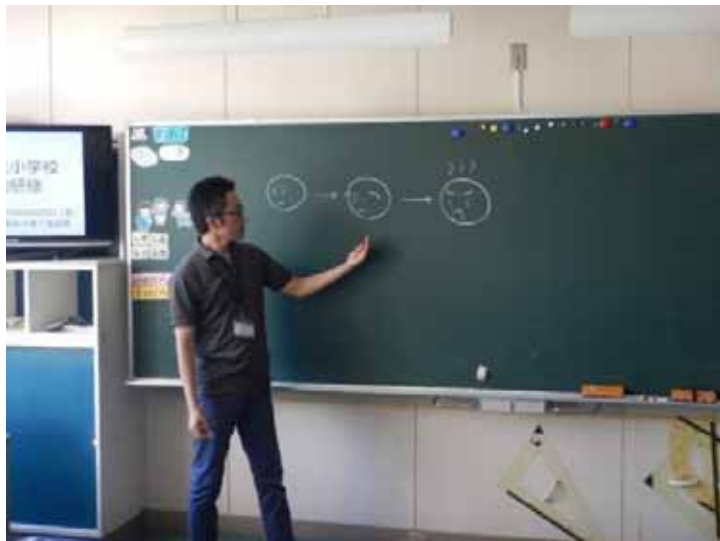
○ 実践の概要

本校では、児童間にトラブルがあった際に、言葉による事後指導を行っていましたが、当該児童が何度もトラブルを繰り返す状況がありました。

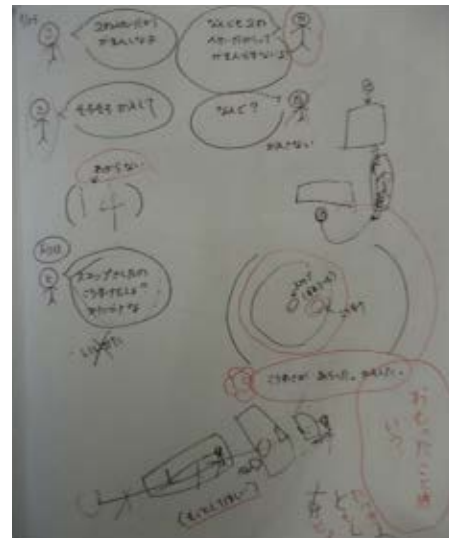
そこで、校内研修において町の発達支援センターの職員を講師とした研修を行いました。

講師からは、自分の立場以外の視点で考えたり、他者の感情を理解したりするのが困難な児童の場合には、児童の日常生活的な生活経験に関する例文を示し、行動や会話文に気持ちが込められていることに気付かせるよう、気持ちの変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示すことが大切であるとの助言を受けました。

研修後は、講師からの助言をもとに、友達の長所や相手の気持ちを視覚化し、互いに認め合う取組を進めています。



町発達支援センターの職員による校内研修



相手の気持ちを視覚化した例

○ 実践の成果

本取組では、特別な教育的支援を必要とする児童が図や矢印を用いながら、時系列で互いの行動を確認し合うことにより、誤解が生じた原因や望ましい行動について振り返りを行うことができるようになりました。

また、取組を継続したことにより、児童自らが図を描いて自分の気持ちを説明する様子が見られるようになってきました。

個に応じた支援の工夫

小学校

全ての児童にとって分かりやすい 環境づくり等の取組

活用した資料

実践事例集 P15、16
- 授業づくり -

○ 実践の概要

本校では、通常の学級において特別な教育的支援を必要とする児童が在籍していることから、全ての児童にとって分かりやすい環境づくりや、授業づくりに取り組んでいます。

はじめに、特別支援教育の「基盤づくり」として、最適な環境づくりの研修を行い、理解を深め、教室環境を整えています。また、授業づくりでは、「見える化」「焦点化」「共有化」の3つの視点を意識した授業を全ての教科で行っています。

授業を考える上で3つの視点を意識して課題やねらい、流れを検討していくことで、それぞれの教師が分かりやすい授業づくりに対する考えを深めることができました。

また、授業実践の交流や考察をしていく中で、教師一人一人の様々な考え方や成果、課題を共有することにより、児童の理解を一層深めることができました。

○ 環境づくり

- ・もの、情報、座席、予定、ルールを5つを分かりやすく提示し、児童が困っていることを軽減しています。

○ 授業づくり

- ・具体物、見やすい板書、図を活用した視覚支援により、児童の学習内容の理解を深めています。
- ・学習内容の精選による指導を焦点化することについて、考えや意見を集約するなどして、支援の工夫を共有化しています。



学習内容の提示

○ 実践の成果

本取組では、全ての児童にとって分かりやすい教室環境づくりや授業づくりを考えたことにより、特別な教育的支援を必要とする児童にとって学習内容の理解が深まりました。

また、日常的に「見える化」を意識した教室環境の工夫を行ったことにより、児童が課題解決に進んで取り組んだり、かかわり合って学んだりすることができるようになってきました。

個に応じた支援の工夫

中学校

生徒の実態を全教職員で共有し
支援の方法を検討する取組

活用した資料

校内研修プログラム P33
- 実態把握、支援方法の検討 -

○ 実践の概要

本校では、特別な教育的支援を必要とする生徒について、校内支援委員会で具体的に支援の内容や方法を検討するために、研修シート 2 を活用しています。

校内支援委員会では、生徒の困っていることや必要な支援について、具体的な場面を想定しながら検討し、日々の生徒への支援を検討しています。

[生徒の実態と支援等]

生徒名	困っていること	必要な支援
A	集中が途切れ、何を求められているのか分からない。	教科書のどこを学習しているか分かるよう、指さしをするなどして具体的に伝える。 質問の意味が理解できるよう、平易に説明する。
B	授業内容を理解することが難しい。	教師の指示を復唱するように促してから課題に取り組むようにする。 授業内容に見通しがもてるよう、授業の導入場面で、視覚的な手掛かりを用いて、説明する。

本研修シートは、特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業や教育局の特別支援教育スーパーバイザーと協議する際にも活用し、生徒の実態を踏まえた効果的な指導や支援について助言を得ることに役立てています。

○ 実践の成果

本取組では、生徒の実態に応じた具体的な支援の方法を検討することにより、全教職員で共通理解を図り、指導や支援を行うことができました。

また、本研修シートを活用した高等学校との引継ぎを行うことで、継続した支援につなげることができました。

その結果、進学先の高等学校においても、入学後の早い段階から保護者と連携し、信頼関係を築くことができました。

個に応じた支援の工夫

中学校

校内の連携体制や保護者との信頼関係を構築する取組

活用した資料

校内研修プログラム P38

- 学級づくり -

○ 実践の概要

本校では、実態把握シートを活用し、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする生徒の実態を全教職員で共有するとともに、校内研修において保護者や当該生徒の意向を踏まえた支援の方向性を検討しています。検討した支援の方向性をもとに、全教職員で当該生徒のよさや成長等のほめるポイント、一人で行うことと支援を受けて行うことを整理し、校内で連携した取組を進めています。

保護者への働きかけ

保護者との信頼関係の構築に当たっては、「特別支援教育のお知らせ～学校生活で困っていることはありませんか～」という資料を配付し、学習上や生活上の困難を改善するために全教職員が連携して必要な支援を行う取組を進めていることを伝えていきます。

また、十分な支援体制が確立できるよう、特別支援委員会で協議した支援の内容について、保護者と合意形成を図っています。

年 組 氏名	困難を示す面と簡単な状況を教えてください。 (上記の～を参考に複数ある場合は絞って結構です)
〈例〉 1年A組	クラス全体へ向けての一斉に出される指示が聞き取ることができない。(学級活動)
氏名〇〇 〇〇	個別に声をかけると理解することができる。 教室環境に対するこだわりが強い。窓が開いているのが気になり、閉めないで気が済まない。 机がまっすぐでない気が済まない。 制止するとイライラして他のことが手につかなくなる。など

特別な教育的支援が必要と思われる生徒の実態把握シート記入例

○ 学級・教科などで、特別な教育的支援が必要と思われる生徒について教えてください。

特別な教育的支援が必要と思われる生徒

学習面と行動面の二つに分けてとらえて下さい。

学習面 聞く 話す 読む 書く 計算する 推論する

行動面 不注意 多動性 衝動性 対人関係 こだわり その他

また、相談医療機関等で判定を受けている生徒も記入をお願いします。

以上のいずれか等で困難を示すなどを参考にして下さい。

特別な教育的支援が必要と思われる生徒の実態把握シート

記入者

年 組 氏名	困難を示す面と簡単な状況を教えてください。 (上記の～を参考に複数ある場合は絞って結構です)
年 組 氏名	

*家庭訪問で「支援をしてほしい」などの要望があった場合もその旨を記入してください。

*教科で困難な状況がある場合も、記入してください(アルファベットが書けないなど)

*特別な教育的支援が必要と思われる生徒は

A: 生活環境等が原因と考えられる生徒

B: 障がいや個々の特性によりできていないと考えられる生徒

に分けられると思います。

○ 実践の成果

本取組では、実態把握シートを活用し、明らかになった生徒の情報や保護者の意向について、全教職員で共通理解を深めることにより、校内の連携が促進されました。

また、全教職員が特別支援教育の考え方等について共通理解を図り、当該生徒への一貫した指導や支援を行ったことにより、当該生徒が安心して学校生活を送ることができるようになりました。

個に応じた支援の工夫

高等学校

校内ケース会議を活用し、
組織的な支援の在り方を検討した取組

活用した資料

校内研修プログラム P46

- 実態把握、支援方法の検討 -

○ 実践の概要

本校では、アスペルガー症候群の診断のある生徒への組織的な対応を行うため、「校内研修プログラム」を活用し、指導や支援について検討しました。

1 ケース会議の実施

(1) 実態把握

ア 授業参観による情報収集

- ・他者との交流を極度に避ける傾向がある。
- ・学習意欲は高く、成績はよい。
- ・時間の区切りが明確ではない遠足や、学校祭の準備等の学校行事への参加を拒む。

イ 支援方法の検討

- ・当該生徒の高い学習意欲を生かした自己肯定感の形成（長期目標の設定）
- ・特別支援教育支援員の協力による具体的な支援方法等の検討（役割分担の確認）

項目	内容	担当者
実態把握	当該生徒の学習意欲、成績、行動傾向等を把握する。	
授業参観	授業参観による情報収集を行う。	
支援方法の検討	当該生徒の学習意欲を生かした自己肯定感の形成（長期目標の設定）	
特別支援教育支援員の協力	特別支援教育支援員の協力による具体的な支援方法等の検討（役割分担の確認）	

校内研修プログラム - 2

2 支援の実施

(1) 具体的な取組

「e - ラーニング」を活用した自学自習の機会を提供

(2) 特別教育支援員のかかわり

- ・端末操作及びパソコンや教科書など調べるための方法やツールの提示
- ・難しい問題を解決するための他者とのかかわる場面の設定
(例) 数学の〇〇先生に聞いてみよう(聞き方、実際の言葉遣い、アドバイス)

3 振り返り

教員が、当該生徒の実態や支援方法について理解を深めたり、自身の指導方法を振り返ったりすることが大切であることについて共通理解を図りました。

○ 実践の成果

本取組では、生徒の意欲を引き出す指導を組織的に実践することにより、当該生徒が教員も含めた他者とのかかわりを求める様子が見られるようになりました。

また、適切な指導や支援を継続して行ったことは、保護者の信頼を得ることにつながり、保護者とも連携して、一貫した支援を進めることができました。

生徒が見通しをもち主体的に 取り組むことができる授業改善の取組

- 授業づくり -

具体的には、実践事例集の授業づくりを参考に、板書や配付プリントに『目標』、『まとめ』、『評価』を記載するなど、生徒が授業の見通しがもてるよう工夫しています。

[illegible]

「評価」では、評価の内容や方法が生徒にも目に見える形で分かりやすくなったことから、生徒の学習意欲の向上につながりました。

ICTの活用

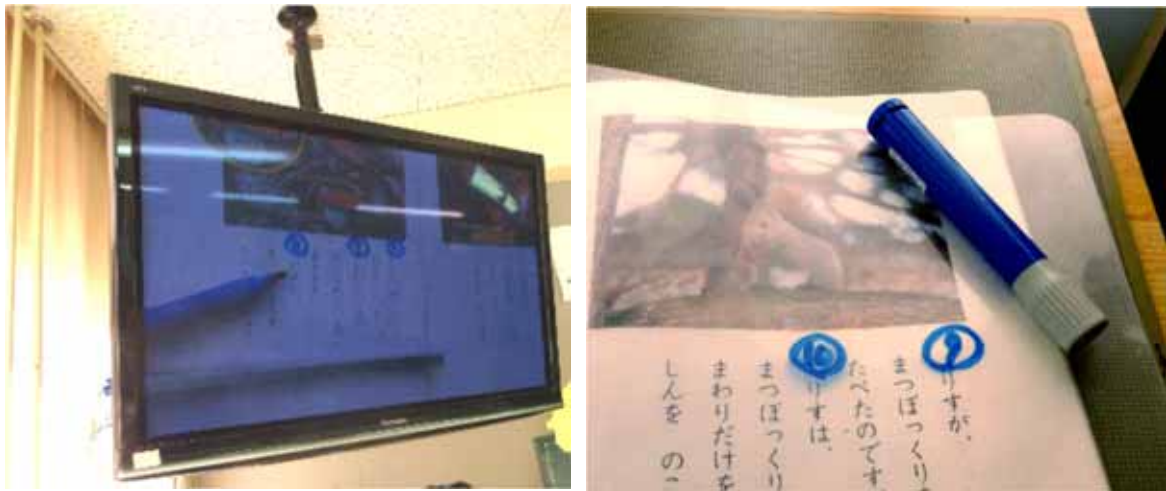
小学校

具体的な指示を分かりやすく伝える取組

活用した資料

実践事例集 P16
- 授業づくり -

○ 実践の概要



テレビを活用した資料の提示

本校では、児童に指示を分かりやすく伝えられるよう、「指示の視覚化」に取り組んでいます。

具体的には、実物投影機と教室に設置されている大画面のテレビを使い、教材の画像や写真、手本となるノートの提示などを行っています。実物投影機は教室に常設して常時電源を入れた状態にしておくことにより、いつでも使うことができる環境になっています。

例えば、国語科の授業では、教科書にある説明文の段落分けを指示する際に、本文の段落等を青色のペンで数字を付け、実物投影機を活用してテレビモニターに表示することにより、分かりやすく伝えることができました。

実物投影機は、操作が容易であり、特に注目させたい部分をすぐに拡大して提示することができます。

○ 実践の成果

本取組では、日常的に視覚的な支援を行ったことにより、特別な教育的支援を必要とする児童だけではなく、全ての児童が興味をもって画面を注視し、学習内容を理解しようとする姿が見られるようになりました。

また、言葉だけではなく、テレビ画面に図や写真を提示したことにより、児童は、課題解決に向けた具体的なイメージをもって学習に取り組めるようになり、学習内容の定着につながりました。

ICTの活用

中学校

実物投影機とインタラクティブプロジェクターを活用した取組

活用した資料

実践事例集 P16

- 授業づくり -

校内研修プログラム P40

- 授業づくり -

○ 実践の概要



授業における活用の様子



インタラクティブプロジェクターを活用した研修

本校では、基礎的環境整備の考え方を大切に「全体への配慮」が行き届いた分かりやすい授業づくりに取り組んでいます。

授業では、プロジェクターとホワイトボードが一体となったインタラクティブプロジェクターや実物投影機等のICT機器を教室に常設して、日常的に活用することにより、授業の導入や説明、終末における学習内容のまとめを視覚的に捉えられるような工夫を行っています。

校内研修においては、生徒が操作だけに集中してしまったり、学習活動が授業の目標から外れてしまったりしないよう留意点を全体で交流し、効果的にICTを活用する取組を進めています。

インタラクティブプロジェクターとは

プロジェクターが映像を投影するスクリーンがホワイトボードの役割も果たしており、プロジェクターが投影した資料には、ホワイトボードと同様に専用ペンを使って書き込むことができます。

○ 実践の成果

本取組では、授業場面において、実物投影機やインタラクティブプロジェクター等のICT機器を活用したことにより、特別な教育的支援を必要とする生徒はもとより、全ての生徒の興味・関心を引き出すことにつながりました。

その結果、生徒は学習内容を理解することともに、自分の意見を分かりやすく説明できるようになりました。

ICTの活用

中学校

ICTの活用による 授業改善の取組

活用した資料

実践事例集 P24

- 授業づくり -

校内研修プログラム P75

- 発達障がいのある子どもへの
指導や支援に関するICTの活用 -

○ 実践の概要

本校では、全ての生徒にとって分かりやすい授業を目指し、ICTを積極的に活用した授業づくりを進めています。

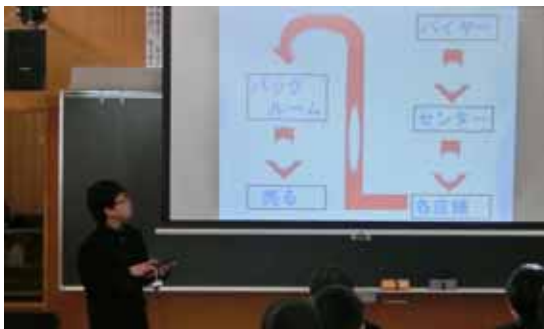
①教科書をテレビに拡大表示して、読んでいる単語を示す。



②板書と生徒のワークシートを揃える。



③分かりやすく説明できるよう生徒が発表場面で使用する。



それぞれの教科でICTを活用し、より効果的に活用できるよう、教員同士で活用の目的や成果について日常的に交流することを心掛けています。

○ 実践の成果

本取組では、校内で積極的にICTを活用することにより、全ての生徒にとって「分かる、できる」授業を行うことができました。

また、生徒の発表場面では、ICTを活用することにより、相手の立場にたった分かりやすい説明が増えてきました。

よさを認める工夫

小学校

互いの「よさ」を認め合う取組

活用した資料

取組事例集 P 74

- 学級づくり、授業づくりについて
点検しよう！ -

○ 実践の概要



完食のカメ（3年生）



学級写真カレンダー（5年生）

本校では、「校内研修プログラム」を活用した校内研修や、外部講師による講演会を行い、全ての児童にとって分かりやすい授業や教室環境について、教職員で理解を深めました。

「校内研修プログラム」や講演会の内容を踏まえ、各学級でこれまで取り組んできたことや、今後、取り組むことができそうな支援内容について、「支援体制づくり取組事例集」の「学級づくり、授業づくりの実践」8項目で整理し、活用シート（同事例集74ページ）にまとめました。

8項目の中で示されている「よさを認める取組」として、第3学年では、給食を全員が残さず食べることができたら、「完食のカメ」の背中にシールを貼るという活動を行っています。

第5学年では、1か月ごとに学級の写真とその時に学級全員でがんばったことや、できるようになったことなど成長の記録をカレンダーにして、教室に掲示しています。

このような取組を教員間で共有するため、校内研修において、各学級の取組内容について交流しました。

○ 実践の成果

本取組では、「完食のカメ」の取組において、がんばって完食しようとしている児童や完食することができた児童に対して、周囲の友達が好意的な言葉がけを行う場面が増えました。

また、「学級写真カレンダー」の取組では、教室に1年間分のカレンダーを掲示することにより、児童が自らの成長を視覚的に実感できるようになり、学級の互いのよさを認め合う雰囲気づくりに役立ちました。

よさを認める工夫

中学校

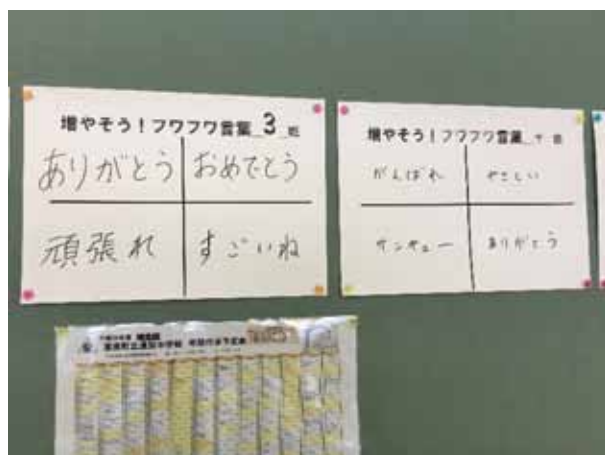
温かい言葉によるコミュニケーションを図る態度を育む取組

活用した資料

実践事例集 P 9

- 学級づくり -

○ 実践の概要



各班でまとめた「増やそう！フワフワ言葉」



生徒会活動のテーマ

本校では、第1学年の特別活動で『増やそう！フワフワ言葉』の授業を行いました。

授業では、班ごとに、「言われて嫌だった言葉（チクチク言葉）」と、「言われてうれしかった言葉（フワフワ言葉）」を交流し、今まで無意識に他人を傷付けていた発言を振り返り、毎日の生活でフワフワ言葉を増やすことの大切さを確認しました。

また、学級の取組を全校に広げるため、生徒会が、『伝言花』というテーマを設定し、全校生徒が幸せになるよう、学校生活において“温かい言葉”を増やすことを全校生徒に呼び掛けました。

フワフワ言葉のよさを実感した取組により、後期の生徒会テーマを「コミュニケーションの大切さ」として、全校生徒が互いに尊重し合う取組を進めています。

○ 実践の成果

本取組では、フワフワ言葉を日常的に使うことにより、生徒は互いに認め合い、尊重し合う態度を育むことができました。

その結果、生徒は、互いに信頼関係を深め、学習活動をはじめとする全ての活動に意欲的に取り組めるようになってきました。

よさを認める工夫

高等学校

学校全体で好意に満ちた言葉掛けを増やす取組

活用した資料

校内研修プログラム P49、50

- 学級づくり -

○ 実践の概要

1 エンジェルワード推進運動（生徒会主催）

生徒が互いに認め合う学級をつくるためには、生徒一人一人が相手の気持ちを考えて発言することが大切です。そこで、学校全体で好意に満ちた言葉掛けを増やすために、生徒会が主体となり、次のような取組を行いました。

全校生徒を対象に、友人から言葉掛けされて嬉しい言葉と傷つく言葉についてアンケートを実施しました。

アンケート結果をもとに、嬉しい言葉を「エンジェルワード」、傷つく言葉を「ゼロワード」として記載しました。

「エンジェルワード」の例	「ゼロワード」の例
「手伝うよ」「無理しないで」「ありがとう」	「キモイ」「ウザイ」「使えない」「触らないで」

全校集会及び校内ポスターにて「エンジェルワード」と「ゼロワード」を周知し、毎月1日には、「エンジェルワード」を積極的に使用し、「ゼロワード」を使用しない「エンジェルワード推進運動」を展開しました。

7月と11月には、「エンジェルワード推進運動」の取組の成果を調査し、12月の後期生徒総会にて報告しました。

2 校内研修の実施

校内研修では、生徒理解、個別の生徒対応の充実を目指して「好意に満ちた言葉掛け」の項目を用いて、普段の学校生活における教員の生徒への言葉掛けの在り方を見直しました。

具体的には、「日常における言葉掛け」を「好意に満ちた言葉掛け」に置き換えるため、グループでロールプレイングを実施しました。

日常における言葉掛け	好意に満ちた言葉掛け
話、聞いてなかったの	大事なことなので、もう1回言います。しっかり聞いてください。
何をしているんだ	どうしたの。理由を聞くよ。

○ 実践の成果

1 エンジェルワード推進運動（生徒会主催）

11月の調査結果から、「ゼロワード」を使った生徒は1割減少しました。また、8割の生徒は、今後もこの運動を継続すべきだと考えており、生徒自身が「エンジェルワード」を意識するようになりました。

2 校内研修の実施

研修の実施により、教員一人一人が普段の言葉掛けを振り返ることにより、好意に満ちた言葉掛けの大切さを実感することができました。